１ 新入寮生の土佐寮紹介

『 土佐寮に入って 』

東京農業大学１年

僕が東京に来てから半年が経ちました。大学の授業や実習もすべて対面で行われていてやっと元通りの日常生活に戻りつつあることを感じます。

東京に来てからは驚きの連続でした。方言だと思っていなかった言葉が方言だったり都会の街の人の多さやうるささビルの高さだったりと、高知にいるだけではできない体験をしています。

話は変わりますが、僕が東京に進学した理由は、将来国際協力機関に入って途上国の食料問題を解決する仕事をしたいと思っていて、そのための知識や技術を手に入れるために東京農業大学に進学しました。大学では、実習をしたり部活や友達と一緒に過ごしたりなど勉強も私生活も充実した生活を送っています。その充実した生活を送ることができるのは寮のおかげだと思っています。なぜなら土佐寮では月曜日から土曜日まで朝と晩の食事が提供され時間が決まっているため規則正しい生活ができるからです。食事の出ない日曜日は自炊をするか土佐寮は吉祥寺も近いため飲食店が多くあり食べる場所には困りません。僕は麺類が好きなので吉祥寺にあるラーメン屋さんや油そば屋さんに行っています。その中でもおすすめのお店があり吉祥寺駅の近くにある「洞くつ家」というラーメン屋さんがおすすめなので行ってみてください。

寮生活をするメリット・デメリットは多くあると思いますがここでは少しだけ紹介したいと思います。

デメリットは１つだけだと思います。寮は共同生活なのですべてのことが自分のしたいときにしたいことができるとは限らないことです。なので僕は遅めにお風呂に入ったり朝の早いときに洗濯をしたりしています。

メリットの１つ目はアクセスの良さだと思います。吉祥寺駅から新宿や渋谷は 20 分ほどで、ディズニーランドには一時間かからないくらいで行くことが可能です。僕はよく映画を見に新宿に行くのでアクセスの良さに助かっています。

２つ目の良さは吉祥寺には何でもあるところです。服や靴などはもちろん映画館にデパート、吉祥寺から出なくても欲しいものはすべて手に入ります。

３つ目は土佐寮の人の良さだと思います。土佐寮の人たちはちょっと癖があるけど面白い人がたくさんいます。今年土佐寮の人たちとよさこいを踊って多くの人と仲を深めることができ先輩とごはんや遊びに行ったりして感じました。僕はこの最後のメリットだけでも土佐寮に入ってよかったと思っています。

２ 在寮生の土佐寮紹介

『 大学生活 』

慶応義塾大学２年

大学生になってから早くも１年半が経ちました。コロナでほとんどの授業がオンラインだった１年生のときとは違い、今では便利だからという理由以外で授業がオンラインになることは滅多にありません。学校に行く機会が増えたことでまず感じたことは、大学という施設がこれまでの中学校や高校などの施設と比べて、設備に対して投資を惜しまないということです。大学内でのすべての場所でキャッシュレス化が進んでおり、Suica やスマートフォンのアプリケーションを使って会計を済ますことができます。学食で専用のアプリケーションを用いた場合、そのアプリに食べたもののカロリーや栄養素を計算される機能が搭載されているため、普段の外食とはまた違った魅力を持ち合わせています。その他にも学生証に IC チップが内蔵されており様々な認証に用いられているなど、高校生のときには想像できなかった一つの発展した街のような世界、そんな印象を大学に抱きました。

大学に行くことができなかった一方で寮にいる時間は他の世代の人に比べて多かったため、私たちの世代は寮の恩恵はより多く受けています。とはいえ、そもそも私が土佐寮に入ったのは１年生の５月からであり、それまではマンスリーマンションで一人暮らしをしていました。そのうえ、寮に入ったばかりのときは寮内でコロナが流行っており、かなり閉鎖的な状態でした。しかしながら、朝晩のご飯が出るというのは大学生にとって非常にありがたく、それだけでも土佐寮に入ってよかったなと感じました。友人に聞いても、はじめは料理のモチベーションが高かったが、数か月もすると作ることが面倒臭くなって、外食をするか何も食べないことがほとんどになった、という人がほとんどでした。これまで家族と暮らしていた人がいきなり一人暮らしを始めると、やることが一気に増えてやる気を失ってしまいますが、寮に入ることでご飯や風呂の準備はする必要がなくなり、徐々に本格的な一人暮らしに向けて慣れていくことができるというのが寮の強みであると思います。また、コロナが少し収まったことで様々なイベントが寮内で行われ始め、人とのつながりを持つことができるという面でも改めて寮に入ってよかったと感じました。

このように、高校のときに比べても、ほかの同級生と比べても恵まれた環境にいるため、大学生活を謳歌し、日々精進していきたいです。

『 よりよい土佐寮にむけて 』

慶應義塾大学４年

大学卒業まであと約半年と、時の過ぎ去る速さに驚かされている昨今です。今回は、自身の就職活動の振り返りと土佐寮自治会の現状をお話ししたいと思います。

私が就職活動に本腰を入れ始めたのは３年生の夏で、コロナ禍がいまだに凄まじい影響を及ぼしているころでした。説明会や面接はほとんどがオンライン。就職を決めた会社でも、対面で開催されたのは面接２回のみで、社風や雰囲気を実際に肌で感じられる機会はほとんどありませんでした。

しかし、コロナ禍はこの社会に必要なものと私がなすべきことを明確にしてくれた要因であったようにも感じます。私は大学で金融を専攻しており、金融業界で社会に役立ちたいと思っていましたが、どの会社を見てもピンとくるものが無く、思いあぐねていました。その中で、進むべき道を照らしたのが日本の現状でした。日本は震災や豪雨・豪雪といった地理的なリスクを慢性的に抱えているだけでなく、コロナ禍のような外国からの影響も受けるリスクの多い国です。この国で経済を円滑に回すため、社会に不可欠な会社を危機から守るために必要なのは政府系金融機関であると考え、今だからこそ見えたこの道を進むことを決意しました。

まだ社会にも出ていない青二才ですが、精一杯頑張りますので、OB や関係者の方々にはご指導賜りますようお願い申し上げます。

次に、土佐寮自治会の現状や土佐寮の雰囲気などについてお話しします。今の土佐寮生を一言で表すなら、「受け身」です。ネットの普及によって、寮生同士のつながりが希薄化していることは勿論、コロナ禍の影響でさらに寮生が「個」になってしまっています。その結果、各寮生が自ら土佐寮をよりよくしようという積極性が失われているように感じます。現に、総会で議題がほとんどあがらないといったことが起きています。

土佐寮で共同生活するにあたり、問題点があったとしても見て見ぬふりをする寮生がほとんどで、中には自ら解決しようとせず、寮監に一方的に解決するよう要求するといった寮生もいるほどです。私自身に寮生を巻き込む力があれば苦心はしないのですが、問題提起をし、寮生達自身で能動的に解決をするための総会が存在しているので、総会を活用し、よりよい土佐寮になればなと思っています。

３ 卒寮生の思い出

『 大学院からの土佐寮へ 』

平成 31 年 3 月卒

私は、学部卒業後、自転車店販売員や電気工事士見習いなどを経て、司法試験の合格を志し、その受験資格を得るという目的で、法科大学院に入学しました。それに伴い、土佐育英協会のお許しを得て、26 歳という年齢で土佐寮に入寮させて頂きました。

大学院では一流の先生方からのご指導や、成績優秀者とのゼミなど、全国レベルの厳しさを知る貴重な経験を積むことができました。連日 23 時まで大学で勉強し、深夜に夕食をとらなければならない時期がありましたが、寮では例外的な措置として夕食を冷蔵庫に取り置いてもらえたおかげで、困難な時期を乗り切ることができました。寮の給食はメニューが豊富であり、栄養バランスの良い食事を出して頂いたおかげで、体調を崩すことは一度もありませんでした。このように食事の心配をすることなく勉強に集中させて頂けたため、受験生である私にとって土佐寮は拠り所でした。

反省すべき点もあります。私は、夕方に風呂掃除当番ができそうにない場合には、当日の早朝に掃除を済ませ、お湯張りのみを何とか寮監さんにお願いすることにより、当番を怠ることだけは回避させてもらっていました。しかし、どのような気持ちでそうしていたのかにつき、他の寮生との間で気持ちを共有する努力をしていませんでした。

つまり「みんなで協力して寮のルールを守り、仕事を分担するからこそ、健康で安心して暮らせているんだなあ……」という雰囲気を、年長者である私がそれとなく作っていくべきだったのですが、これができませんでした。今でも深く後悔しています。

時には事務室にお邪魔させてもらい、寮監さんとお話をさせてもらっていました。私が大学院のカリキュラムに付いていけず迷走していた時、寮監さんは私の底力を信じて下さり、また普段から人生のヒントをたくさん教えて下さいました。実に様々な活動に取り組まれている寮生、そして人生の大先輩である寮監さんや調理人さんとの交流をもつことができる点は、土佐寮のとても良いところだと思います。

私は現在も司法試験に挑戦しており、退寮後も毎年成績を向上させております。いまの私があるのは、土佐育英協会の関係各位の皆様、そして寮生の皆様のおかげです。

本当にありがとうございました。